

2020年4月23日

長野県知事 阿部 守 一 様
長野県教育長 原 山 隆 一 様

原水爆禁止長野県協議会
代表委員 諏訪 浩 一

I 女性会議 長野県本部
議長 田口 輝 子

文部科学省「放射線副読本」に関する要請

文部科学省は、2011年の福島第一原子力発電所の大事故の後、予算約2億円を投入し「放射線副読本」を作成し、全国の小中高校に配布しました。2018年10月には再改訂版を作成し配布しています。

私たちは、この副読本の内容にはきわめて問題点が多いと感じています。よって、以下の事項を申し入れますので、長野県および長野県教育委員会が適切な対応を取られるように要請します。

記

1. 文部科学省が作成した「放射線副読本」は、福島原発事故の負の側面の記述があまりにも少なく、被災した人々の切実な生活状況や思いなどがほとんど掲載されていません。また、放射線被ばくの危険性を心配する必要がないかのような説明に終始しています。

副読本という学校現場で使用される教材で、国の考え方を一方的に児童・生徒に教え込むことは問題だと言わざるを得ません。放射線や原発について、国民の間で考え方が大きく分かれている現状では、このような偏った副読本は学校現場で使用すべきではありません。

よって、配布した副読本を小中高校から回収されるように要請します。

2. 副読本の内容で、私たちが特に問題があると思う記述や資料は以下のとおりです。

- ① 第1章の「放射線、放射性物質、放射能とは」の中で、100ミリシーベルト未満の被ばくでは相対リスクが「検出困難」とする表を掲載しています。しかし、原発労働従事者で、累積被ばく線量が100ミリシーベルト以下でもがんや白血病を発症し、労働災害に認定されている例もあります。

また、喫煙や飲酒などの生活習慣と放射線被ばくを並べて評価している表現もありますが、自らの努力で避けられる要因と原発事故や原発労働による被ばくという自らの意思で避けられない要因を同じように扱うことはきわめて問題です。

放射線被ばくの影響には「しきい値」がないことは、専門家の間での多数意見です。放射線被ばくには必ず発がんや白血病のリスクが伴うと明記すべきです。

- ② 第1章の中で、自然放射線と病院でのレントゲン撮影などの人工放射線を取り上げて、その平均被ばく線量を紹介し、人体への影響には違いがないという記述があります。また、「身の周りの放射線」として宇宙から、空気から、食べ物から、大地から、それぞれ放射線が出ているという記述もあります。

このような記述では、放射線は日常生活でごく普通にあるもので、怖がることはないと言

っているようなものです。放射線を扱う職場では「放射線管理区域」が設定され、厳重な管理がされています。福島原発事故は燃料の核分裂を制御できずにメルトダウンしました。人工放射線は、人間が制御できないものがあることが福島原発の大事故で証明されました。

自然放射線と人工放射線を同列に扱う記述は、放射線に対する誤った認識を児童・生徒に植え付けるだけです。

- ③ 第2章「原子力発電所の事故と復興のあゆみ」では、福島原発事故による被害に関する記述がきわめて少なく、放射能漏れは限定的であり、現在では放射線量はすでに十分に下がって、人々の健康被害にも大きな影響を与えなかったかのような記述が散見されます。

原発事故を引き起こした東京電力や国の責任については一言も触れず、事故の被害を少なく見せかけ、すでに今では放射線量が下がって復興が進んでいるというイメージを振りまく記述はまったく容認できません。

政府が発出した「原子力緊急事態宣言」がいまだ解除されていない現状と、今後何十年も続くであろう事故の後処理、これから数十年にわたって帰れない避難者の存在など、福島原発事故が引き起こした甚大な被害と長く続く放射能との闘いを詳述すべきです。

- ④ また、第2章では、原発事故からの避難者が現在約4万4千人いるが、除染が進み放射線量が下がって避難指示が解除され、復興に向けた取り組みが着実に進展しているという趣旨の記述があります。

このような記述内容とうらはらに、意図的に落とされている事実が多数あります。事故からの避難先で関連死した人が多数いること、避難後に居住地への帰還をすでに諦めた多くの人たちがいること、4万4千人は自主避難者をカウントしていない人数であること、避難が解除された地域の空間放射線量は事故前の水準よりいまだに高いこと、避難を解除した地域にはほとんど避難者が帰っていないこと、避難地域の解除によって避難者に対する支援が打ち切られていることなど、不都合な真実の記載がほとんどありません。

原発事故後9年たった現在でも、さまざまな問題が山積している事実を記述すべきです。

以上のように、文部科学省が作成・配布した「放射線副読本」は、放射線や原発事故の負の事実を覆い隠す記述があまりにも多く、小中高校生に誤った知識や認識を与えかねません。

長野県および長野県教育委員会が、副読本の記述内容についてどのような認識を持っているのか、お聞かせください。

また、文部科学省に対し、副読本の偏向した記述内容を是正し、上記に指摘したような負の事実や違った観点からの記述も記載するなど、内容を一新するように長野県および長野県教育委員会として意見することを求めます。

以 上